

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 6 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530440

研究課題名 (和文) <悪>のグレースケール形成に関する社会学的研究

研究課題名 (英文) A SOCIOLOGICAL STUDY OF FORMATION OF THE GRAYSCALE OF BADNESS

研究代表者

高橋 征仁 (MASAHITO TAKAHASHI)

山口大学・人文学部・准教授

研究者番号：60260676

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会化、青少年、悪、非行

1. 研究計画の概要

本研究は、人々がどのようにして、様々な<悪>の観念を分別し、理由づけ、序列化していくのかについて、社会学的な見地から実証的に明らかにすることを目的としている。

- (1) 広範な<悪>の観念に着目することで、道徳意識の多元性と重層性を理論化する。
- (2) 縦断的調査研究によって、<悪>のグレースケールの発達の生成と時代的変容のプロセスを明らかにする。
- (3) 比較文化的な調査研究によって、<悪>のグレースケール形成をめぐる文化的共通性と差異を経験的に明らかにする。
- (4) <悪>のグレースケール形成についての知見を、学校での道徳教育や矯正教育、裁判員制度などへ応用する可能性を検討する。

2. 研究の進捗状況

- (1) 道徳意識の形成に関する旧来のモデル (内面化モデル、構造主義モデル) は、モノ・メタファーに依拠していたために、道徳意識の多元性や適応力を見逃してきた。これに対して本研究では、免疫系のメタファーに基づいて、モジュールによる防衛システム形成という観点から道徳意識形成の理論化を図った。
- (2) 非行認識に関する縦断的調査研究をもとに、喫煙規範の発達の生成と時代的変容のプロセスを明らかにした。喫煙規範は、中高生になると自己裁量の問題領域として先取的に弛緩されていく。歴史的には様々な問題帰属が行われてきたが、近年は、自己裁量の問題から他者危害への問題への転換が行われつつある。
- (3) 国際比較調査のデータアーカイブを利用して、政治的・社会的な問題意識が決して一

枚岩ではなく、複数の異なるフレームからモジュール的に構成されていることを明らかにした。このうち、青年期には、個人の自由や革命、世代交代などに関する関心が高まる一方で、政党活動や秩序維持に対する関心が低下する傾向が見られた。これらの観点から、青年期の政治的無関心にみられる普遍性と文化的多様性を一貫して明らかにする道筋を示した。

- (4) 旧来の道徳意識論は、<悪>を回避することや拒絶することに、焦点を合わせてきた。しかし、そうした教育方法は、人間社会をよりナイーブなものにしてしまう。本研究では、<悪>のグレースケール形成についての知見をもとに、<悪>の分類や序列性を強調する道徳教育のスタイルを提唱した。

3. 現在までの達成度

- ①当初の計画以上に進展している。
(理由) ミシガン大学主幹の ICPSR データアーカイブを利用することで、道徳意識の文化的多様性と普遍性に関する実証的研究が格段に進んだ。また進化心理学者や神経科学者との交流によって、隣接分野での知見から大きな知的刺激を受けることができた。

4. 今後の研究の推進方策

三中信宏の「系統樹思考」に基づいて、<悪>の観念の個体発生を定式化することにしたい。この方法を用いるのは、パターン分類かプロセスか、普遍性か文化的多様性かという2項対立を超えて、道徳意識の生成メカニズムを明らかにしたいと考えるからである。また、できれば、Eye-Tracking や fMRI 実験によって、上述の知見を補強していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① 高橋征仁、若者の政治的無関心は本当か?—世代間断絶と社会秩序の高次化に関する考察、東京大学社会科学研究所編『ISSPを用いた国家・市民権・政府の役割に関する国際比較分析』報告書、54-69、2011、査読有
- ② 高橋征仁、社会病理学への領域固有アプローチ、現代の社会病理、25、57-75、2010、査読有
- ③ 高橋征仁、<男らしさ>の行方～青少年の性行動における記号化と分極化、性の健康、18-2、33-39、2010、査読無
- ④ 高橋征仁、社会統計でみる<草食系男子>の虚実～欲望の時代からリスクの時代へ、現代性教育研究月報、28-1、1-7、2010、査読無
- ⑤ Masahito Takahashi and Mei-Ling Wang, A Comparative Survey of Adolescent Relativism, The 2009 Asia-Pacific Forum on Sociology of Education, National University of Tainan, 821-824, 2009, 査読有
- ⑥ 高橋征仁、現代青年の時間的展望における発達的变化と時代的変容、社会分析、35、39-57、2008、査読有

[学会発表] (計 19 件)

- ① Masahito Takahashi, Moral Panics as Autoimmune Diseases, Moral Panics in the Contemporary World, 2010年12月11日, Brunel University, UK
- ② Masahito Takahashi, Modularity of Mind and Multiple Modernizations, 第83回日本社会学会テーマ・セッション「日本と東アジアにおける多元的近代」, 2010年11月6日, 名古屋大学
- ③ Masahito Takahashi, An Immune System Model in the Research of Moral Socialization, XVII World Congress of Sociology, 2010年7月13日, Göteborg Convention Center, Sweden
- ④ Masahito Takahashi & Mei-Ling Wang, A Comparative Survey of Adolescent Relativism, The 2009 Asia-Pacific Forum on Sociology of Education, 2009年5月7日, National University of Tainan, Taiwan
- ⑤ Masahito Takahashi, A Grayscale of Badness among Japanese Adolescents, Meeting on Adolescent Development, 2009年3月16日, UC Berkeley, US

[図書] (計 1 件)

- ① 海野道郎・片瀬一男・高橋征仁ほか、有斐閣、<失われた時代>の高校生の意識、2008、59-91

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

なし